



～図書室にはこんな本があります～

No. 115

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 花森安治が赤紙のことを“一銭五厘”と例えたが、どのような理由からなのか知りたい。

答) 「赤紙」「一銭五厘」「召集令状」をキーワードとして、**ことば**で検索します。

全資料	→	ことば	→	赤紙	⇒	103件
全資料	→	ことば	→	召集礼状	⇒	127件
全資料	→	ことば	→	一銭五厘	⇒	30件
全資料	→	ことば	→	赤紙 一銭五厘	⇒	3件該当

『赤紙』(393.2/097) 閉架

『戦前の日本を知っていますか?』(210.7/Mo27) 開架

『村と戦争—兵事係の証言』(393.2/D52) 閉架

『空と海よもやま物語』(916/H84) 閉架

『暮しの手帖「花森安治」 保存版3=341号』(051/Ku55/341) 閉架雑誌

◎ 軍隊では上官が「貴様らの代わりは一銭五厘で来る！」とよく怒鳴ったそうです。兵隊は一銭五厘のハガキでいくらかでも召集できるという意味だったそうですが、実際の赤紙は郵便ではなく、役場の担当者が直接本人の家に届けて手渡しされました。日露戦争時には「兵の命は二銭五厘(当時の小銃一発の値段)」という言い方がはやったそうですが、それが転化したものではないか、という説もあるようです。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

焼跡からの出発と「リンゴの唄」

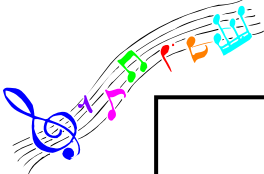


並木路子さんが歌う「リンゴの唄」、誰もが一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

「リンゴの唄」は昭和20年10月に封切られた松竹映画「そよかぜ」の主題歌でした。この映画の主演に抜擢されたのが並木路子さんです。フレッシュな魅力で勝負し、そののびやかな明るい個性は、大衆が待ち望んでいた平和で自由な時代を象徴するかのようでした。映画の中で歌われた「リンゴの唄」は、観客すべてに強烈なインパクトを与えました。この時の様子を並木さんはこう綴っています。

「封切りの当日、館内は観客が通路にあふれるばかりでしたが、映画が終わるとみんな明るい顔で『リンゴの唄』の一節を口ずさんで出てくるのでした。敗戦の重みのなかで生きることに必死な人々の心に、明るいメロディーが染みわたったのでしょう」（『証言の昭和史6』(210.7/Sh95/6)より）

また、平成7年、阪神大震災復興応援歌として、並木路子さんと山野智子さんの新バージョン「リンゴの唄」が発売されました。敗戦後焼野原となった国土の復興のために大きな慰めとなったこの明るい歌が五十年後にまた災害地の人々への応援歌となったのです。



リンゴの唄 作詞: サトウハチロー
作曲: 万城目 正

著作権があるため掲載できません。

参考文献: 『この人この歌』(767/Sa25)
『それはリンゴの唄から始まった』(767/I89)

—図書室から—

暑い夏も過ぎ、過ごしやすい秋がやってきました。季節の変わり目は体調を崩しがちです。体調管理を整えて元気にお過ごし下さい。

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ No. 115
2009年9月21日 発行
編集・発行 昭和館 図書室
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1